

るか、或は更に新しく、それはいけないといふことを言てきかせてやるかしなければなりません。

こうした場合にまで、何故したかと詰問するのは、適當な方法ではありません、尤も、詰問して至當である行及幼児もありませんけれども、そうでない方が多数であつて、つまり短氣を起して感情的にガミ／＼言ふ小言は、少しも幼児を良くする上に益のない事で、却て害を殘します。よほど氣長く訓へ導いてやらなければ、眞に良い人になるものではありません。そこでまづ、大人は、幼児のある良くない行に接した場合に、静に且つ敏捷に其行の種類、輕重、及之に付ての訓へ方、叱り方などを考へてそうして、後に最も良い方法をとるべきでござらぬませう。

そうして、幼児の爲には、何時でも、幼児は幼児

相應の知情意を有て居るもの、幼児には幼兒相應の道徳があるもの、幼兒の道徳的感情は萌芽はあ
るけれどもまだよく成長して居らぬもの、今現に
四邊の境遇や大人の教導のかかげで、其萌芽は大
きくなつて行くものである、といふことを深く考
へてやる必要があると思ひます。

家庭に子供の必要なること

大阪 小島松之助

◎プラトンの謂へるが如く、家庭は夫婦并に子供
の三人物よりなれる團體なり。夫婦間に生ずる子
供は家庭の全調和に必要なものにして、子供な
ければ夫婦の諧合其極に達せず、眞の家庭をなす
能はず、自然の大目的たる種族の繁殖も出來ず、
又、夫婦間の愛情は假令濃かなるにしても、夫婦

的慈愛的及孝心的の三つの愛情が互に相反感して所謂三位一体とならざれば、其哀惜に於て満足せしめ能はざる欠点ありて、完備調和せる眞の家庭といふべからず。

◎世の人々は男子と女子とは孤立すれば、比較的不完全にして兩々相俟ち、相共働して完全なるものなりとの眞理を認むるも尙ほ。家庭が完全に調和、整頓する爲には子供の必要なことを注意せざる人多きが如し。

◎家庭が完全なる爲には必ず、父母及子の三要素并に其和合が必要有益にして實に人生の快樂中家庭に於て父が慈嚴に指揮し嬉々たる愛兒に圍まれて母が温和に醫むところの家庭團樂の清淨濃暖なる快樂に比すべきものあらんや。又、父母は子供により幸福、有益なる感化を受くるものにして、

例は父母の心情に霽々たる慈愛親切の温情を維持活動せしむるものは子供にして、子供なき老男女には此温情は早く凋萎せるにあらざや。

◎又子供は父母の血統を永續せしむるものにして親は其親愛の情により子供の爲に艱難、盡瘁するを喜び、此子寶を生みたる母に對し、父の愛重心を増すものなり。又、子供生すれば夫婦間の愛情も更に一層、濃厚確實となり、夫は只に子供其ものを愛するのみならず、子供の母をも愛し、加之ならず、已れ自身をも爲に愛重するに至る。

これ、愛情が人類社會に貢獻する最も大なる部分にして、夫婦并に子供の諧合を確固強盛ならしむる所以なり。

◎純粹潔白なる家庭に於ける諧合の樂みは世略の艱難により勞疲し又數々、憂鬱なる厭世氣風を帶

べる人々の精神を休養すること恰も彼の神代史に所謂、回齡の神泉の靈驗ありしが如し。

人々が愛子、愛孫等の清淨無邪氣なる精神中に已の精神を常に浴せしむるときは、氣風快活にして老年に至るまで所謂、心情の永久なる妙齡を保ち得るものなり、心情老衰せば凡ての幸福も單に虚形たるに至るべし。

◎子供の有益なる感化は之を養育する父母の恩恵の大部分を酬ゆるものと謂ふべし。

◎子供の實に言ふべからざる厚意親切は私慾なる獨身者には到底感知せざる天恵ともいふべくして人類の義務を果して自然の大法則に忠順なるもの正當なる報酬といはざる可けんや。

傳染病

醫學士 長瀬復三郎

(三) 風疹

之は麻疹に似て發疹するもので、麻疹の流行の前後に流行します。そうして之を輕症の猩紅熱又は麻疹とする學者もございしますが、麻疹又は猩紅熱に一度かゝつた幼児でも此病にかゝり、又麻疹の前後にはやるを見ても之を特別な病とする方がたしかです、此病は器具又は人から傳染します。そうして主に二才乃至十才の兒が侵されます。潜伏期は二三週間です。又は潜伏期なしにすぐに少し發熱して面部からはじめて發疹します。其疹は麻疹のに似て居りますが、幾分か大きく皮膚より高まり留針の頭、又は櫻實大で紅色です。それより二日乃至五日で疹がなくなります。麻疹とち